

第3章 健康づくり・疾病予防の推進

第1節 健康の増進

【現状と課題】

県においては、平成13年に策定した健康増進計画「健康かごしま21」が平成24年度で終了したことに伴い、計画の達成状況や「県民の健康状況実態調査（平成23年度実施）」等を踏まえるとともに、国の基本方針の視点である「生活習慣病の発生予防に加え、重症化の予防も推進」、「高齢化の進行に伴う生活の質（QOL）の向上策の一層の推進」及び「社会全体で健康づくりを支援するための環境整備」を勘案して、平成25年3月に「健康かごしま21」を策定しています。

本市では、21世紀の鹿児島市民一人ひとりが健康で生き生きと生活できる「安心健康都市」を目指し、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上を目的に、平成14年3月、市民の健康づくり計画である「かごしま市民健康55プラン」を策定し、平成14年度から平成24年度までの11年間、市民、関係機関・団体及び行政が一体となって様々な取組を進めてきました。

「かごしま市民健康55プラン」の終了に伴い、最終評価で明らかになった課題や社会情勢の変化等を踏まえ、今後の市民の健康づくりを総合的に推進するため、平成25年度から平成34年度までの10年間の計画として、「かごしま市民すこやかプラン」（以下、「すこやかプラン」という）を策定し推進してきました。平成29年度は計画の中間年度にあたることから、目標の達成度やこれまでの取組・課題等について検証を行い、社会情勢の変化等に対応し、今後の計画推進に資するため、中間評価を実施しました。

今回の中間評価において、83指標の達成状況については、目標達成している指標が13指標（15.7%）、改善している指標が38指標（45.8%）で、2つ合わせて51指標（61.5%）と全体の約6割が策定時より改善していました。「たばこ」「歯・口腔の健康」「高齢者の健康」「こころの健康」の分野では、改善している指標の割合が高くなっていました。一方、悪化している指標は30指標（36.1%）で、特に「身体活動・運動」、「休養」、「アルコール」の分野において、悪化している指標が多くなっていました。

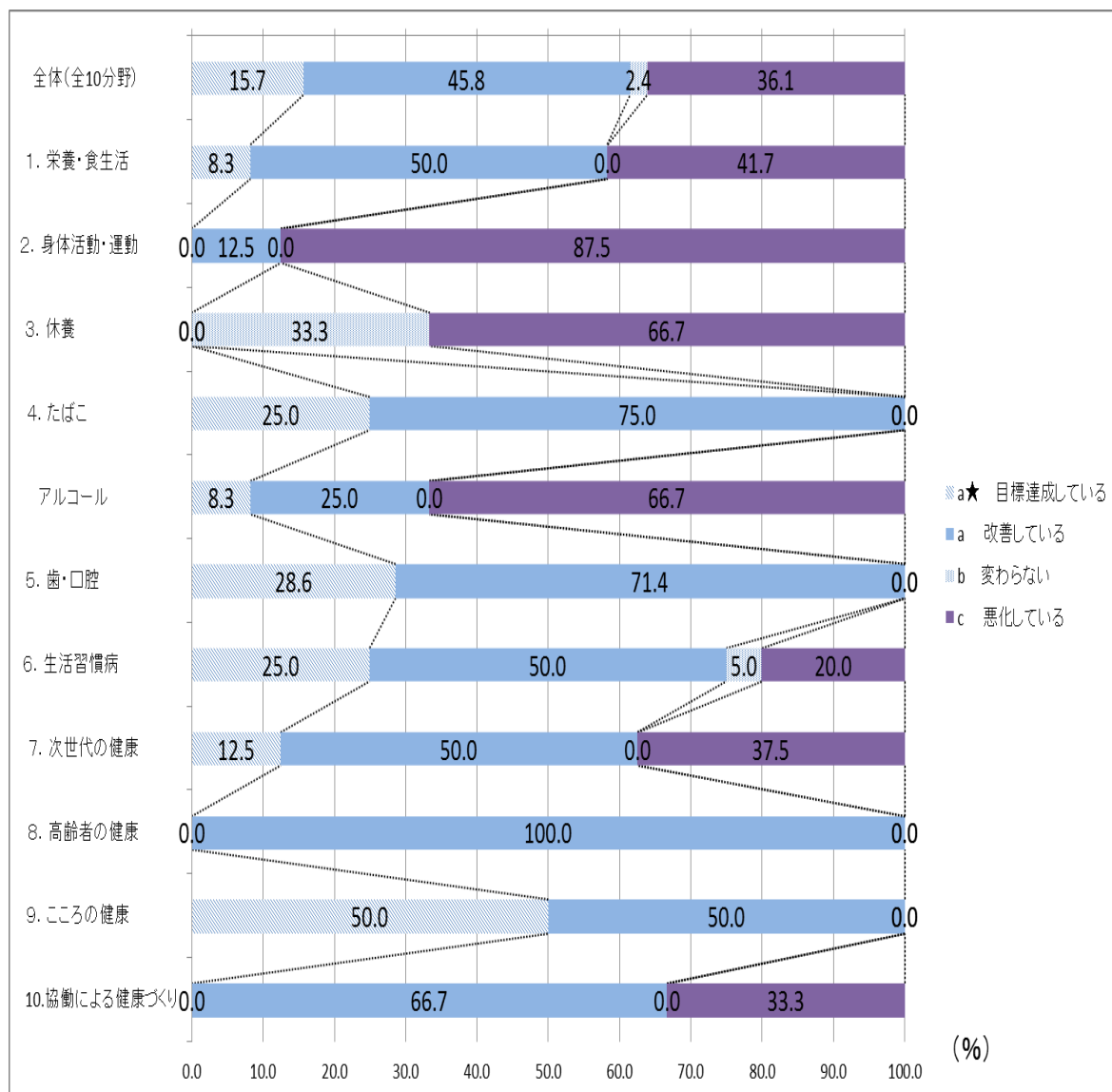
今後は、特に中間評価で明らかとなった「身体活動・運動、休養、アルコール、」の分野において、関係機関と連携しながら、具体的な取組を実施し、指標の改善に取り組んでいく必要があります。また、中間評価で目標を達成した指標については、国・県および本市が策定している計画等を参考に目標値の一部変更を行いました。

【図表 3-1-1】 かがしま市民すこやかプランの全分野の目標値達成状況

[かがしま市民すこやかプラン（中間評価報告書）]

判定	評価	解釈	指標数 (割合)
a★	目標達成している	平成34年度の目標値を達成している	13 (15.7%)
a	改善している	現状値が策定時より目標値に近づいている	38 (45.8%)
b	変わらない	現状値が策定時と変化なし	2 (2.4%)
c	悪化している	現状値が策定時より目標値から遠ざかっている	30 (36.1%)

【図表 3-1-2】 かがしま市民すこやかプランの分野別の目標値達成状況



[かがしま市民すこやかプラン（中間評価報告書）]

【施策の方向性】

1 生活の質の向上

(1) 生活習慣の改善

① 栄養・食生活

肥満は、がん、高血圧、糖尿病などの生活習慣病との関連があり、また、20歳の女性などに見られるやせは、骨量の減少や低出生体重児出産につながることもあるなど健康問題を引き起こす可能性があります。

市民一人ひとりの生活習慣病予防や健康維持のため、正しい食習慣についての指導や、知識の普及に努めます。

本市の主な事業として、食育推進事業や生活習慣改善支援事業などに取り組みます。

② 身体活動・運動

身体活動・運動は、生活習慣病の発症予防だけでなく、高齢者の認知機能や運動器機能などの社会生活機能の維持・増進に影響します。少子高齢化が進行する中、身体活動・運動を普及していくことは大変重要なことです。

すこやかプランの中間評価では、ひとつの指標を除いて策定時より悪化しており、今後重点的に取組を実施していく必要があります。身体活動量を増やすためには、まず無理をせずに日常生活の中で活動量を増やすこと（例えば通勤通学時の歩行や家事など）から始めていくことが大切です。歩数は測定・評価がしやすい身体活動量の最良の指標です。身体活動の大切さについて広く知識を普及し、市民が暮らしの中で意識してからだを動かし、日常生活における歩数が増加するように努めます。

本市の主な事業として、運動普及推進員支援事業や地域スポーツクラブ運営活性化事業などに取り組みます。

③ 休養

心身の疲労を回復させるためには、十分な睡眠をとり、余暇等でからだやこころを養うことが大切です。

睡眠についての正しい知識の普及や休養の方法、本市の特性である温泉を活用したリラクセス法など、その人に合ったリラクセス方法や休養のとり方を啓発していくことが、からだところの健康を保つことにつながっていきます。

本市の主な事業として、精神保健推進事業や健康増進施設管理運営事業などに取り組みます。

④ たばこ・アルコール

○ たばこ

たばこによる健康被害についての知識の普及・啓発に取り組んでいくとともに、地域や職場などと連携した取組を進めていきます。

また、生活習慣病予防のためにも禁煙支援の充実を図るとともに、「健康増進法の一部を改正する法律」が平成30年7月に公布されたことに伴い、受動喫煙防止対策の推進のため、公共施設等への啓発ポスターの掲示、市ホームページでの情報提供、たばこの煙のないお店の登録推進などに努めます。

第3章 健康づくり・疾病予防の推進

本市の主な事業として、生活習慣改善支援事業、元気いきいき検診事業、受動喫煙防止対策事業などに取り組みます。

○ アルコール

過剰な飲酒は、アルコール依存症をはじめとしたアルコール関連疾患を引き起こす可能性が高いため、適正飲酒量などアルコールについての正しい知識の普及・啓発に取り組みます。また、すこやかプランの中間評価でも悪化している指標が多く、退職にむけてのセミナーや、健診時などでも啓発を行っていくことが必要です。

本市の主な事業として、生活習慣改善支援事業や元気いきいき検診事業などに取り組みます。

⑤ 歯・口腔の健康

歯や口の健康を維持するために、歯磨き等の自己管理とともに、定期的な歯科検診を行うよう啓発に努めます。また、健全な食生活等、生活の質の向上に寄与するための口腔機能の維持・改善を図るよう努めます。

本市の主な事業として、歯科保健事業や歯周病検診などに取り組みとともに、市民の歯科口腔保健の推進を図るための拠点として平成30年6月に「鹿児島市口腔保健支援センター」を設置したところであり、歯科口腔保健に関する知識の普及啓発や歯科疾患の予防に取り組みます。

(2) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

① 生活習慣病

がん、循環器疾患、糖尿病やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）^{*1}などの生活習慣病について、正しく知るための情報発信を行います。

また、「自覚症状がなくても定期的に有効な検診を行うこと」「自覚症状がある場合にはいち早く医療機関で受診すること」の重要性について、普及・啓発に努めます。

本市の主な事業として、特定健康診査・特定保健指導事業や元気いきいき検診事業などに取り組みます。

(3) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

① 次世代の健康

子どもの頃からの食習慣や運動習慣は、成人期の生活習慣に影響を与えます。

生涯にわたって健康でいられるよう、すこやかな生活習慣を幼児期から身につけ、生活習慣病予防の基礎づくりを推進します。

また、妊娠前・妊娠期・産後の心身の健康づくりを行います。

本市の主な事業として、乳幼児健康診査事業、妊婦健康診査・健康相談事業、産婦健康診査事業などに取り組みます。

^{*1} COPD（シーオーピーディー）：慢性閉塞性肺疾患。咳や痰、息切れが主な症状で、「慢性気管支炎」と「慢性肺気腫」のどちらか、または両方によって肺への空気の流れが悪くなる病気。患者の90%以上は喫煙者で、初期には自覚症状がほとんどない場合が多く、ゆっくりと進行し重症化する。呼吸機能の低下が進み、十分な酸素を得られなくなると、酸素吸入療法が必要になる。禁煙などにより予防が可能である。

② 高齢者の健康

生活習慣を改善し、介護予防に取り組みます。

また、高齢者ができる限り健康で活動的な生活を送れる（生涯現役）ように、社会参画を推進し、生きがいを推進します。

本市の主な事業として、お達者クラブ運営支援事業、地域で介護予防を展開するための連携推進事業、シニア世代のヘルスプロモーション事業などに取り組みます。

③ こころの健康

不安・悩み・ストレスを抱える人が気軽に相談できる環境づくりを推進します。また、ストレス解消法など、こころの健康に関する情報提供に努めます。

本市の主な事業として、精神保健推進事業や精神保健福祉交流センター事業などに取り組むほか、「鹿児島市自殺対策計画～誰も自殺に追い込まれることがないのち支える鹿児島市をめざして～」(平成30年3月策定)に基づく自殺対策事業の取組を推進します。

2 社会環境の整備

(1) 市民一人ひとりの取組とともに、社会全体で健康を支え守るための環境整備

① 協働による健康づくり

地域や職場などで健康づくりへの意識を高め、社会全体が相互に支え合いながら個人の健康づくりを支援します。

また、市民一人ひとりが、地域活動や健康づくり活動に積極的に参加し、地域や人とのつながりを深める取組を推進します。

本市の主な事業として、地域保健活動事業などのほか、市民健康まつりの開催等に取り組みます。

【図表 3-1-3】 かがしま市民すこやかプランの主な目標指標

		目 標 項 目	目 標 (平成 34 年度)
1 生活の質の向上	(1) 生活習慣の改善	①栄養・食生活	
		適正な体重を維持している人の増加 20～60歳代男性の肥満者の割合 (20～59歳男性)、(60歳代男性)	23%、20%
		40～60歳代女性の肥満者の割合 (40～59歳女性)、(60歳代女性)	12%、20%
		20歳代女性のやせの人の割合	14%
		減塩に気をつけている人の割合の増加 20～59歳、60歳以上 (成人1人当たりの1日平均食塩摂取量)	50%、75% (8g)
		②身体活動・運動	
		日常生活における歩数の増加 20～64歳男性、20～64歳女性 65歳以上男性、65歳以上女性	7,800歩、7,500歩 5,800歩、5,500歩
		日常生活の中で意識的にからだを動かすなどの運動をしている人の割合の増加 20～64歳男性、20～64歳女性	75% (共通)
		③休養	
		睡眠による休養がとれている人の割合の増加 20～59歳、60歳以上	80%、90%
	温泉を活用して休養がとれている人の割合の増加	50%	
	④たばこ・アルコール		
	成人の喫煙率の減少 (喫煙をやめたい人がやめる)	12%	
	多量に飲酒する人の割合の減少 20歳以上男性、20歳以上女性	7%、0.4%	
	⑤歯・口腔の健康		
	80歳で20歯以上有する人の割合の増加	40%	
	1年に1回は歯科検診を受けている人の割合の増加 20～59歳、60歳以上	55%、60%	
	(2) と重症化予防の徹底	①生活習慣病(がん・循環器疾患・糖尿病・COPD)	
	がん検診受診率の向上 【男性・女性】 胃がん(40～69歳)、肺がん(40～69歳)、 大腸がん(40～69歳) 【女性】子宮頸がん(20～69歳)、乳がん(40～69歳)	(H34年度) ※1 50%	
特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上 特定健康診査の実施率 特定保健指導の実施率	(H35年度) ※2 60% 60%		

(1) 生活の質の向上	(3) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上	①次世代の健康	
		朝食を毎日食べる人の割合の増加 小学生、中・高校生	97% (共通)
		体育の授業以外で、週3日以上、1日30分以上の身体活動や、運動をする機会のある児童・生徒の割合の増加 小学生、中学生 高校生	90% (共通) 80%
		②高齢者の健康	
		介護予防プログラム*1への参加者数の増加	(H33年度)※3 3,200人
		外出について積極的な態度を持つ人の割合の増加 65歳以上男性、65歳以上女性	82%、78%
		③こころの健康	
		自殺者の減少(人口10万人当たり)	(H37年)※4 9.7人
		不安・悩み・ストレスの解消に取り組んでいる人の割合の増加 20~59歳、60歳以上	90%
2 環境の整備	(1) 市民一人ひとりの取組とともに、社会全体で健康を支え守るための環境整備	①協働による健康づくり	
		市民と一体となって健康づくりに取り組む団体数の増加	200団体
		職場で、健康づくりについての取組がある人の割合の増加	50%
		健康づくりへの支援や医療体制が充実していると感じる人の割合の増加	(H33年度)※3 50%

※1 目標年度(平成34年度): がん対策推進基本計画(平成29年10月閣議決定)

※2 目標年度(平成35年度): 第3期鹿児島市特定健康診査等実施計画

※3 目標年度(平成33年度): 第五次鹿児島市総合計画

※4 目標年度(平成37年): 鹿児島市自殺対策計画(平成30年4月施行)

[かごしま市民すこやかプラン]

*1 介護予防プログラム: 要支援又は要介護になるおそれのある高齢者(元気づくり高齢者)を対象に楽しく運動し、バランス良くおいしく食事がとれるよう支援するなど、生活機能向上を目的とした教室や個別支援。

第2節 疾病の予防

【現状と課題】

1 生活習慣病について

- 本市の死亡原因の上位は、がん（悪性新生物）、循環器疾患（心疾患・脳血管疾患）などの生活習慣病が占めています。
また、脳卒中、心筋梗塞、腎不全など重大な合併症を引き起こす恐れのある糖尿病や、慢性腎臓病（CKD）などへの対策も健康寿命の延伸や社会保障費の安定のための重要な課題とされており、これらは生活習慣を改善することで、発症を予防することができます。
- 「かごしま市民すこやかプラン」の前計画である「かごしま市民健康55プラン」の最終評価では、「糖尿病」「高血圧」「コレステロールや中性脂肪が高い」と言われている人の割合は、女性より男性の割合が高く、また、男女ともに年齢が高くなるにつれ増加する傾向にあると分析しています。
- 今後も、医療保険者や医療機関などの関係機関と連携し、中高年を対象にした健康づくり対策の推進や、健康知識の普及・啓発に努める必要があります。
また、健康状態を把握する第一歩となる「健康診査」や「がん検診」の必要性を周知し、受診率を高めていくことが必要です。

2 がん検診の受診状況

- 本市においては、健康増進法に基づき、健康教育、健康相談及び訪問指導等を総合的に実施するとともに、集団・個別検診をはじめ、半日がん検診*1、骨粗鬆症検診、腹部超音波検診等の各種検診等の実施及び検診内容の充実を図ることなどにより、生活習慣病の予防、早期発見、早期治療、合併症の予防等に努めています。
- 各検診とも受診率は、ほぼ横ばいですが、最も高い子宮がんが22.3%、最も低い胃がんが7.9%となっており、今後とも、より一層受診率の向上に努める必要があります。

【図表 3-2-2-1】半日がん検診の対象者及び受診率等の年次推移（単位：人、%）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
対象者	2,400	2,400	2,800	2,500	2,700
受診者	330	308	302	304	307
受診率	13.8	12.8	10.8	12.2	11.4

※「半日がん検診」の対象者等は、各種がん検診の対象者に含む

[かごしま市の保健と福祉]

*1 半日がん検診：節目検診（40歳と50歳を対象）として、がん検診、歯周病検診、骨粗鬆症検診及び腹部超音波検診などを行なう。

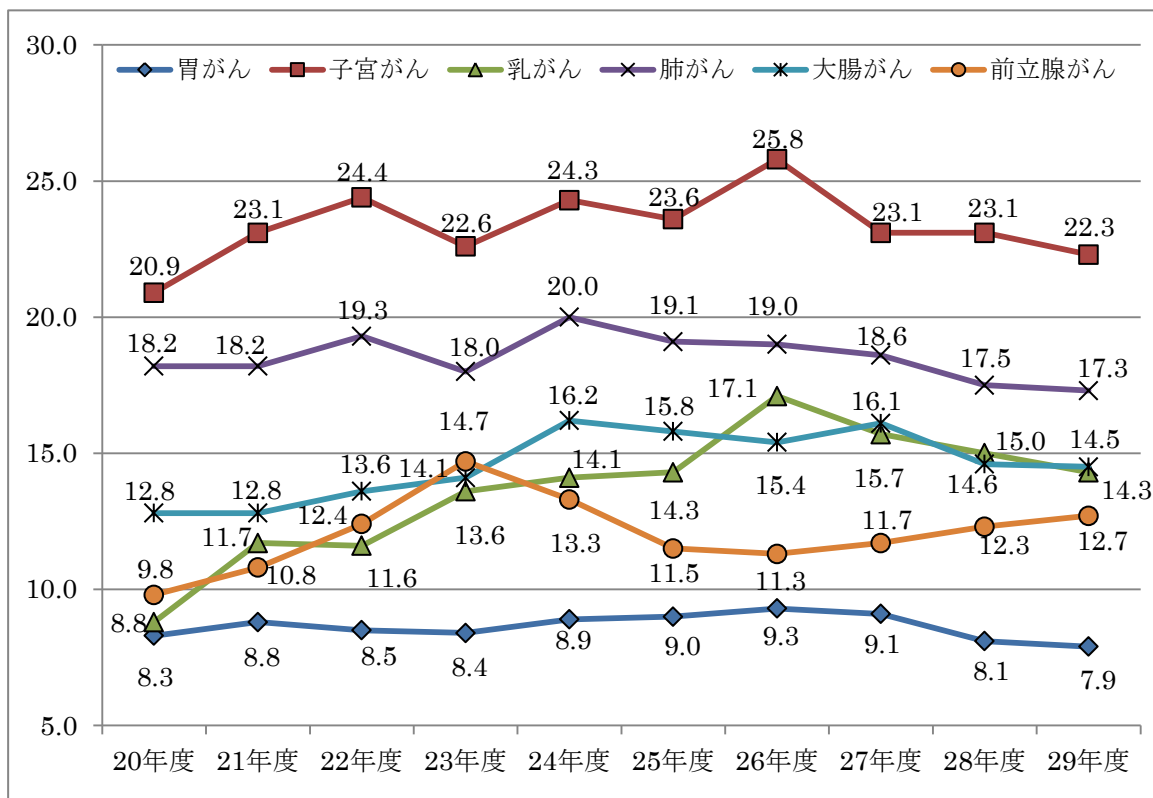
【図表 3-2-2-2】各種がん検診の対象者及び受診率等の年次推移 (単位：人、%)

		対象者	受診者	受診率	検査結果 (要精密)	がん 発見者数	がん 発見率
胃がん検診	25年度	128,900	11,589	9.0	1,234	25	0.22
	26年度	131,200	12,232	9.3	1,232	19	0.16
	27年度	133,300	12,098	9.1	1,056	17	0.14
	28年度	135,100	10,952	8.1	943	8	0.07
	29年度	136,700	10,805	7.9	984	注1	注1
子宮がん検診	25年度	118,900	28,094	23.6	368	27	0.10
	26年度	120,200	30,978	25.8	320	33	0.11
	27年度	121,900	28,219	23.1	399	31	0.11
	28年度	122,400	28,273	23.1	431	34	0.12
	29年度	122,700	27,423	22.3	407	注1	注1
乳がん検診	25年度	99,300	14,184	14.3	736	57	0.40
	26年度	102,200	17,429	17.1	1,011	74	0.42
	27年度	103,500	16,222	15.7	959	33	0.20
	28年度	104,400	15,656	15.0	786	57	0.36
	29年度	105,600	15,060	14.3	799	注1	注1
肺がん検診	25年度	127,000	24,308	19.1	37	6	0.02
	26年度	129,400	24,634	19.0	200	13	0.05
	27年度	131,100	24,361	18.6	420	28	0.11
	28年度	132,700	23,281	17.5	550	30	0.13
	29年度	134,300	23,169	17.3	678	注1	注1
大腸がん検診	25年度	139,500	22,085	15.8	1,913	74	0.34
	26年度	146,700	22,638	15.4	1,678	72	0.32
	27年度	148,500	23,952	16.1	1,775	61	0.25
	28年度	146,700	21,414	14.6	1,564	38	0.18
	29年度	148,200	21,427	14.5	1,477	注1	注1
前立腺がん検診	25年度	7,700	886	11.5	53	9	1.02
	26年度	7,800	881	11.3	59	13	1.48
	27年度	7,000	818	11.7	64	19	2.32
	28年度	7,500	926	12.3	63	13	1.40
	29年度	8,000	1,016	12.7	76	注1	注1

注1 平成29年度のがん発見者数は平成31年6月末に結果判明

[かごしま市の保健と福祉]

【図表 3-2-2-3】 各種がん検診の受診率の年次推移

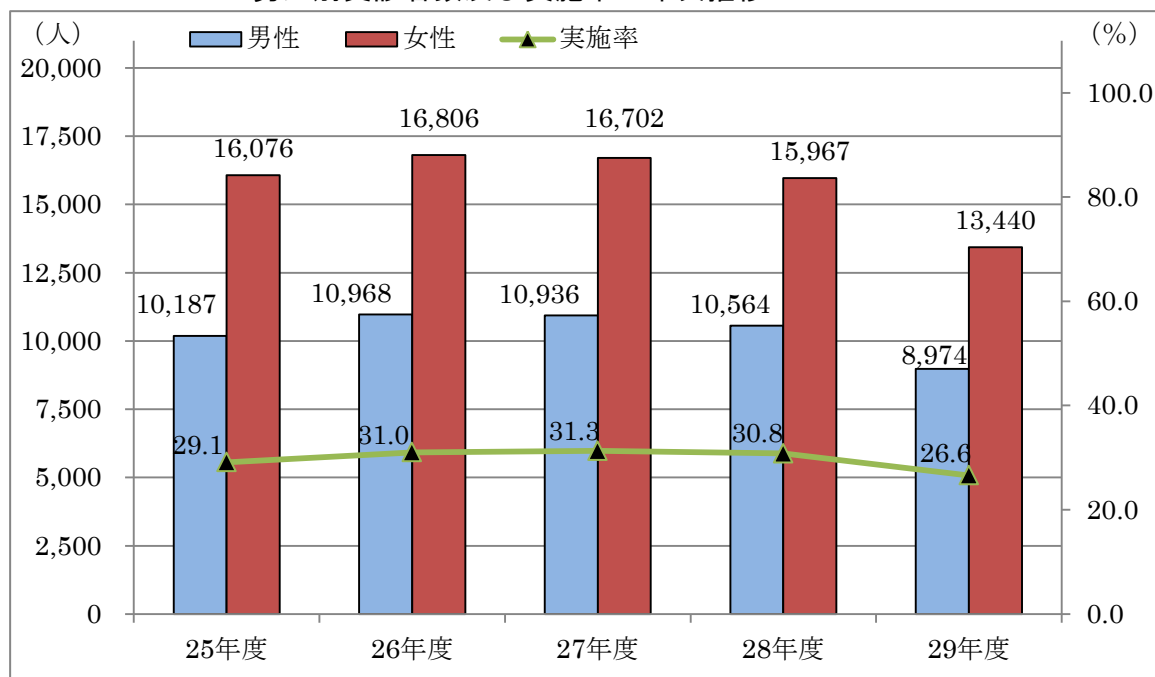


[かごしま市の保健と福祉]

3 国民健康保険の特定健康診査及び特定保健指導等の状況

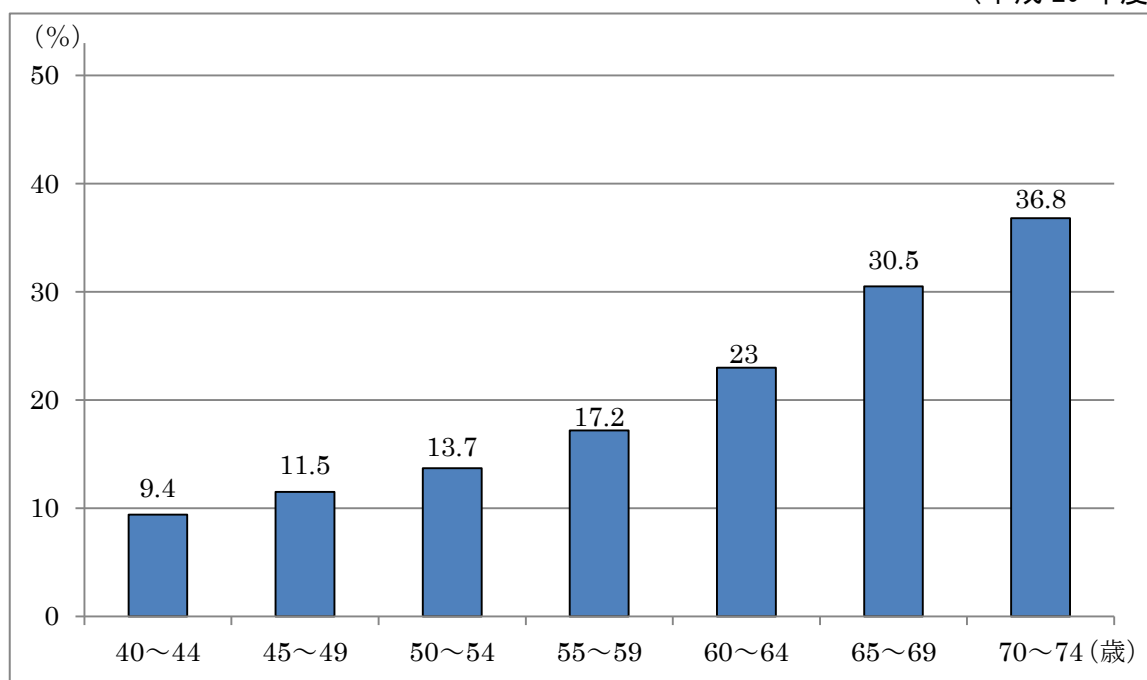
- 特定健康診査の実施率向上をはかるため、平成 26 年度から特定健診受診券と保険証を一体化しましたが、実施率は平成 25 年度から平成 29 年度にかけて 30%前後の横ばい傾向にあり、目標値である 60%を大きく下回る結果が続いています。男女別の実施率は、女性の実施率が高く、また年齢別では、年齢が高くなるほど実施率が高くなっています。今後、実施率の向上のため更なる検討を図っていく必要があります。
- 特定保健指導の実施率は、個別訪問による特定保健指導の充実等により、上昇傾向にあり、平成 29 年度が 38.4%となっていますが、目標値である 60%を大きく下回っています。実施率を向上するために、今後も実施体制の見直しや効果的な保健指導を行っていく必要があります。
- 今後も、特定健康診査・特定保健指導の効果的な実施により、メタボリックシンドローム該当者及び予備群に、早期に保健指導を実施し、生活習慣病の改善・重症化の予防を図ることが求められています。

【図表 3-2-3-1】本市の国民健康保険事業における特定健康診査
男女別受診者数及び実施率の年次推移



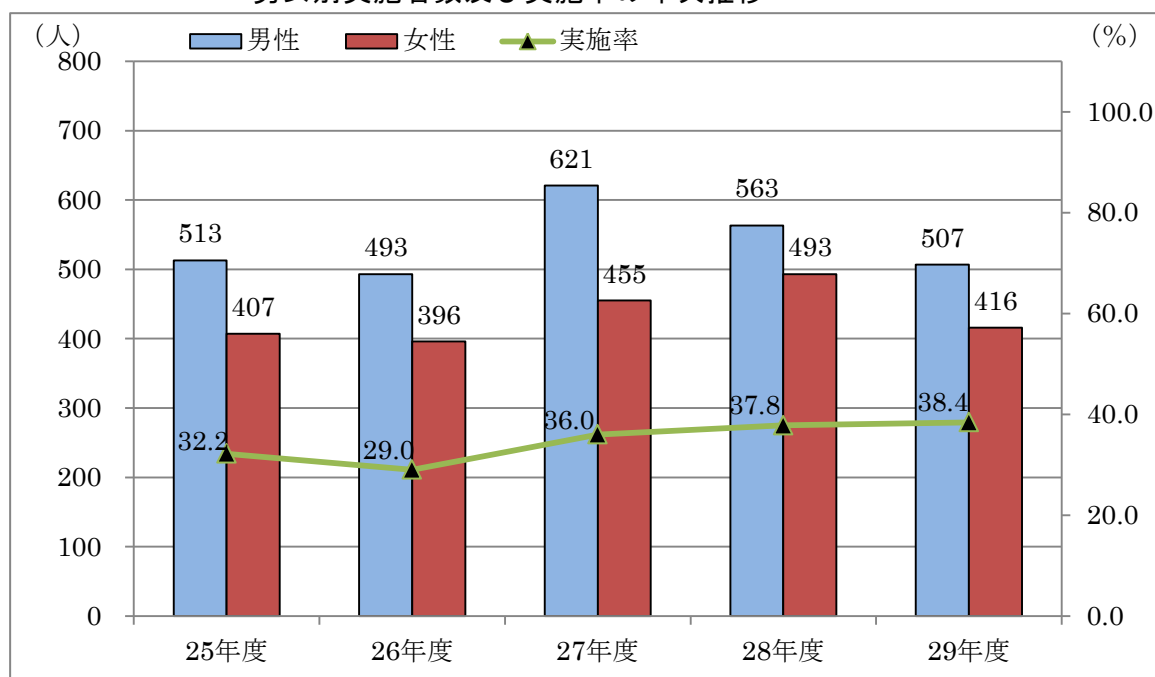
[法定報告より]

【図表 3-2-3-2】本市の国民健康保険事業における特定健康診査 年齢別実施率
(平成 29 年度)



[法定報告より]

【図表 3-2-3-3】本市の国民健康保険事業における特定保健指導
男女別実施者数及び実施率の年次推移



[法定報告より]

- 国保ヘルスアップ事業¹では、生活習慣病の早期予防や重症化を防ぐため、メタボ対象項目に健康課題のある者に対して、訪問等による保健指導を行っています。

【図表 3-2-3-4】本市の国民健康保険事業における
国保ヘルスアップ事業の実績の年次推移 (単位：人、%)

年度	対象者数	初回支援	
		実施者数	支援割合
27	1,995	1,429	71.6
28	2,456	1,690	68.8
29	2,058	1,440	70.0

[市国民健康保険課調べ]

- 特定保健指導実施者〔B〕や国保ヘルスアップ実施者〔C〕は、ほぼすべての項目で通常受診者〔A〕のデータより改善しており、どちらも受けていない対照群〔D〕と比較しても保健指導により健康に対する意識の変化や生活習慣の改善が図れたことがわかります。例えば、次表の特定健診データにおいて、体重は28年度と29年度を比較すると、特定保健指導実施者は0.66kg、国保ヘルスアップ実施者は0.65kg減っていますが、どちらも受けていない対照群は0.06kg増加しています。

¹ 国保ヘルスアップ事業：被保険者の健康の保持増進、疾病予防、生活の質の向上等を目的に、特定健康診査の受診者中、健康課題のある者に対して、訪問等による保健指導を実施する等の保健事業をデータ分析に基づき実施する事業。

【図表 3-2-3-5】本市の国民健康保険事業における特定保健指導及び国保ヘルスアップ実施後の健診結果比較（28～29年度特定健診データより）

項目	検査で分かる症状	健診データ	[A] 2年連続 受診者 (16,832人)	[B] 特定保健指導 実施者(680人)	[C] 国保ヘルスア ップ実施者 (1,262人)	[D] 対照群 (15,088人)
肥満	内臓脂肪の蓄積等	体重(kg)	0.01	-0.66 ↗ 改善	-0.65 ↗ 改善	0.06
		BMI	0.05	-0.19 ↗ 改善	-0.28 ↗ 改善	0.07
		腹囲(cm)	0.15	-1.07 ↗ 改善	-0.09 ↗ 改善	0.23
血圧	血管の老化・動脈硬化	収縮期血圧(mm Hg)	0.22	-2.10 ↗ 改善	-5.16 ↗ 改善	0.67
		拡張期血圧(mm Hg)	-0.22	-0.98 ↗ 改善	-2.71 ↗ 改善	-0.03 ↗ 改善
脂質	血管の老化・動脈硬化	中性脂肪(mg/dl)	-0.21	-15.01 ↗ 改善	-1.25 ↗ 改善	0.30
		HDL コレステロール(mg/dl)	0.90	1.26 ↗ 改善	0.49 ↗ 改善	0.92 ↗ 改善
		LDL コレステロール(mg/dl)	2.23	-1.85 ↗ 改善	-3.37 ↗ 改善	2.75
肝機能	肝臓の障害	GOT(AST)(U/l)	-0.39	-4.03 ↗ 改善	-1.68 ↗ 改善	-0.30 ↗ 改善
		GPT(ALT)(U/l)	-0.48	-1.39 ↗ 改善	-2.49 ↗ 改善	-0.31 ↗ 改善
		γ-GT(U/l)	-0.64	-3.47 ↗ 改善	-5.09 ↗ 改善	-0.30 ↗ 改善
血糖	糖の代謝異常(糖尿病等)	空腹時血糖(mg/dl)	-4.29	-6.39 ↗ 改善	-12.92 ↗ 改善	-3.63 ↗ 改善
		HbA1c(%)	0.03	-0.08 ↗ 改善	-0.10 ↗ 改善	0.04
腎機能	慢性腎臓病(CKD)等の腎臓の障害	クレアチニン(mg/dl)	0.02	0.02	0.03	0.02
		e-GFR(ml/分/1.73m ²)	-2.22	-3.37	-1.26	-2.27

[市国民健康保険課調べ]

【施策の方向性】

1 慢性腎臓病（CKD）予防ネットワークの運用

市民の生活の質（QOL）の維持・悪化防止の観点から、人工透析の新規患者や心血管疾患の減少及び医療費の抑制を図ることを目的に、糖尿病や高血圧などにより発症する慢性腎臓病の重症化を予防するための慢性腎臓病（CKD）予防ネットワークを運用し、その人の状況に応じた適切な医療体制の整備の取組を行ってまいります。

2 がん検診等の受診率の向上に向けた取組

医療制度改革に伴う法改正により、国民健康保険や全国健康保険協会などの医療保険者に義務づけられた特定健診や長寿健診、生活保護受給者で医療保険未加入者を対象とした一般健診と、がん検診等が同一会場で受診できるようにするなど、受診しや

第3章 健康づくり・疾病予防の推進

すい体制の充実に努めるとともに、職場でがん検診の機会のない方に対する受診案内の取組、受診率の向上に努めるとともに、有効ながん検診を実施するため、検診の精度管理に努めます。さらに、特定健診・特定保健指導をより円滑に実施するため、制度等の広報・周知に努めます。

3 特定健康診査及び特定保健指導実施率向上に向けた取組

特定健康診査の実施率向上を図るため、平成 29 年度から開始した特定健診受診者へのインセンティブ（トク得クーポン）事業の充実や効果的な未受診者勧奨を実施するほか、治療中のデータを特定健診結果とみなす医療機関からの情報提供の促進を図っていきます。

また、特定保健指導の実施率向上のため、健診機関における初回面接の分割実施の確立等を図っていきます。

4 糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実施

本市においては、平成 29 年度から糖尿病性腎症重症化予防プログラムを実施しており、特定健診や国保レセプトデータから糖尿病の未治療者や治療中断者を抽出し、受診勧奨を行っています。また、今後、糖尿病性腎症のハイリスク患者を抽出し、保健指導を継続的に実施していく予定です。

5 生活習慣病予防に関する知識の普及・啓発

栄養・運動・休養や、飲酒・喫煙の害についての知識の普及・啓発のため、運動普及推進員、食生活改善推進員及び健康づくり推進員などのボランティア組織の活動を推進します。また、マスメディアや市広報誌等を活用して生活習慣病予防と重症化予防の徹底に関する知識の普及・啓発に努めます。

6 正しい生活習慣を身につけるための健康教育

健康に関する正しい知識の普及を図り、生活習慣病予防や介護予防等を推進するため、各種団体や職域等と連携して各種講演会や健康教室などの集団健康教育に取り組みます。

7 利用しやすい健康相談体制の充実

市民が、心身の健康や生活習慣病の予防及び治療等について相談しやすい体制を整えるとともに、歯周疾患、病態別について重点的に健康相談を実施します。

8 訪問指導等による個別支援

保健師等が、様々な健康課題のある者に対し、電話や訪問により、生活習慣病予防や関係諸制度の活用方法等についての情報提供を行う等の支援を実施します。